

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373401011		
法人名	医療法人社団井口会		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	岡山県真庭市西河内42-2		
自己評価作成日	令和1年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=3373401011-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7
訪問調査日	令和元年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・認知症を持ちながらも、普通の生活ができ楽しみのある生活が出来るよう努力している。
- ・同一法人内に総合病院、精神科専門病院があり医療面では24時間対応できるシステムがある。
- ・地域との繋がりを密に持ち、住み慣れた地域でその人らしく生活が出来る様支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族アンケートの自由記載欄にコメントを書く家族が少ない中、ここ青空はたくさんの感謝の言葉が綴られていた。それは、全ての支援に手を抜かず全力で取り組んでいるからである。例えば元旦以外は毎日入浴支援を行い、清潔保持に努め、楽しく、安心して入浴できる支援をしている。また、料理は旬の食材を使用し、素材の味を活かした調理をしている。おやつも、できるだけ手作りで提供をしている。利用者から、「食べる。食べる」と言われるのが辛い、と聞いていたので、食事は利用者が希望する量しか提供していなかった。しかし、あまりにも食事が美味しかったので、今では皆と同じ量を残さず食べるようになった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をよく目の付くところに掲示している。スタッフ一人一人が理念を理解し、日々の実践につなげている。	理念に掲げる「明るく穏やかな暮らし」の支援をしている。利用者に寄り添い、少しでも穏やかな暮らしが送れるように努めている。畑をしていた人が多いので、庭に畑を作り、一緒に草抜きをしながら野菜を育て、在宅での暮らしの継続支援をしている。	事業所は、地域生活の継続支援と地域関係性を重視した理念を大切にしている。この理念の実践継続に期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加(お祭り・とんど・ゴミ拾い等)したり、地域の清掃活動に参加して近所の方々との会話が弾んだり、地域の子供たちとの交流が出来る機会を持っている。	この辺りは日が暮れると真っ暗になるが、事業所の灯りが地域の人達へ安心感を与えている。子ども達が通学の途中でトイレを借りに寄ってくれる。利用者が思いがけず施設外へ出てしまった時は、近所の人から連絡をもらえる関係が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭、クリスマス会等施設行事へ地域の子供達へ参加をしてもらい、交流会を通してグループホームを知って頂き、認知症への理解を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動報告や事故報告書の報告を行い、検討、意見を頂き実践に生かしている。防災に関する意見を参考にして日頃の生活に生かしている。運営推進会議を活用して身体拘束等の適正化の為の理解を深めている。	運営推進会議には、家族が出席しやすい土曜日に開催しているので、夫婦で来られるなど大勢の家族が参加してくれる。事業所の取り組みを一方的に話すのではなく、「何か良い案はありませんか」と尋ね、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会へ出席して頂き報告、相談を行っている。また、真庭市のGH連絡会に出席して、相談、指導を頂いている。日頃から何でも相談しやすい関係を築いている。	書類等の提出は、市へ直接持って行き、事業所の実情を伝えている。運営推進会議にも参加しもらい、日常の様子を撮影した写真をスライドし、利用者の暮らしぶりを把握してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための指針を整備をしたり、運営推進会議で事例の報告、検討、研修を行っている。身体拘束ゼロへの手引きを職員全員に配布し研修を行っている。	安全対策の行為が、身体拘束に該当するかどうかを常に話し合っている。門扉に簡易止めを設置しているが、車椅子の利用者が門の傍へ行けば、他の利用者が扉を開けてくれる等、いつでも外へ出られる環境である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加し、虐待とは何か、何故起こるか！等について話し合い、虐待について理解を深め、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で市民後見について勉強を行い意識づけをしている。市民後見人テキストにて学習している。対応が必要な利用者には関係者と話し合い、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、家族へ入居時説明を行い疑問な点は出していただき答えるようにしている。問題があればその都度連絡している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口や意見箱を設置している。また、重要事項説明書に苦情の申し立てができることを明記し説明している。また意見や要望が言い合える関係づくりに努めている。	家族には、事業所の質の向上を図るためにも何かあれば言うて欲しいと投げかけてはいるが、「いつもよくしてもらっている」との答えが多い。利用者が栗を剥いている姿を見て、実家にある栗を取りに来て欲しいと言われ、利用者と一緒に栗拾いに行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適宜職員会議やユニット会議を開催し、意見を聞いている。毎日の申し送り時に気付いた事、疑問点等言い合える環境を作ったり、申し送りノートに検討事項を記入してもらい、検討をしている。又提案アンケート等行い意見に反映させている。	日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、意見を聴くようにしている。職員も気になる点があれば、ささいなことでもその都度相談をしている。今年、職員も快適に過ごすことが出来る方法を知りたいと考え、アンケートで提案を聞いた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力状況、職場環境の問題点を報告し、改善できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体では新任職員研修会を開催している。施設内では年間計画の下に研修会を実施している。施設外の研修会に参加の呼びかけをし、研修後伝達講習を開催している。受講しやすいように勤務の調整もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加で意見交換を行っている。グループホームの連絡会に参加し他施設との情報交換を行っている。グループホームの合同勉強会に出席している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入居前から、本人、家族の思いや、要望を伺い安心して生活できるようになじみの関係をつくり、アセスメントシートを利用し、不安なことや要望を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に不安なこと、要望を聞くようにしている。入所後も、様子を知らせ家族との関係作りに努めている。スタッフの写真と名前を提示し職員との人間関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今どのようなサービスが必要かを本人、家族と考えるようにしている。他のサービスの検討も図り、他のサービス事業所との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所仕事や洗濯物干し、掃除や草取りなど利用者のできることを職員と一緒にやっている。特に畑仕事など入居者から過去の経験を通じて教わるることが多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議への出席を依頼して、面会ができる機会を設けている。面会時に現状を報告し、必要時には電話連絡をしている。外出、外泊も家族と自由にしていただいている。3ヶ月に1度「青空だより」を発行し利用者の様子を知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事に参加したり、なじみの場所へドライブしたり、近所のスーパーに行き地域の方々とのふれあう機会を持っている。また地域の敬老会へ出席して馴染みの方々に会って懐かしく会話が出来る。	毎年敬老会に参加し、知人に会える機会を作っている。知人も「今年も来てくれると思って待っていた」と言ってくれる。家族が毎回参加したくなるような運営推進会議を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係から、助け合い、補い合えるような席に成るよう配慮したり、ゆったりすごせるようにソファや庭にベンチを置いて、利用者同士会話が弾むように職員は話題の提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、本人、家族との連絡を取ったり、気軽に立ち寄れる環境を作っている。次施設に移られても面会したり、様子伺いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受け持ち担当者が本人の希望を聞いたり、また日常生活の中で様子を記録しカンファレンスに役立てている。一人一人と話す機会を持っている。	会話の中で出た言葉から思いをくみとり、現在の利用者の状況で出来るできないは別として実践している。例えばワープロを使用していたと言え、パソコンを持ってきてもらい、職員が使い方を教えたこともあった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、面会時に家族から情報を収集している。入居後も会話の中から思いや、希望、気持ちの変わって行く様子等に寄り添い、どのように暮らして生きたいか把握し対応に努めている。。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から1人1人の状況を経過記録やカンファレンス、申し送りを通して職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、カンファレンスを行いその人に合ったケアが出来ているか見直しを行っている。家族には面会時に希望、意見、思いを聞き介護計画を作成している。状況が変わればその都度カンファレンスを行っている。	入所前に生活歴をこまかく聞き、暮らし方の希望を介護計画に反映させている。介護記録の中で気になる行為があれば赤線を引き、次の計画に活かしている。利用者から聞いた介護への願いや要望に沿った介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録に記入し、職員で情報共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に合わせ、通院の必要な方の送迎、付き添い、入院時に必要な支援など行っている。入院中も見舞い、状況の把握に努めるなど、柔軟な対応に勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オカリナ、舞踊、健康体操や、大正琴のボランティアの方々の協力があり楽しみを持っている。また地区行事にも積極的に参加し地域の方々と取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月内科往診を受け、指導いただいている。受診は家族の希望を聞き行っている。家族同行が不可能なときには、職員が同行している。また、医療連携で健康面での相談がスムーズに出来、安心した生活が出来るように支援している。	在宅からの継続支援が事業所の方針の為、利用前からのかかりつけ医の受診支援をしている。必要に応じて受診の付き添いもし、普段の様子や変化を伝えるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専門職との連携で利用者の健康状態の把握をし、その変化に応じた支援を行っている。介護職、看護職それぞれの気づきを共有し異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院すると、その病院の相談員と情報交換し、スムーズな退院の運びとなるよう支援している。また、安心して入院治療が出来る様に、支援している。入院中は見舞いに行き、様子を伺ったり、カンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意志確認書を作成し、事業所が対応しえる最大のケアについて説明している。また、本人、家族の思いを尋ね、医療、福祉関係者との連携で支援している。	入所時本人に、可能な限りターミナルや死後についての要望を尋ね、その要望に沿った支援に努めている。延命処置はして欲しくは無いが、痛みへの苦痛のケアを希望していた利用者には、傍らに寄り添い痛みを共感したり、痛い箇所をさすったりしていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応訓練を行っている。また緊急時の対応についてマニュアルに添って研修をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を消防署、地元消防団に参加してもらい実施している。水害や地震対応について研修会参加し自施設で報告会を行っている。マニュアル作成を法人全体で検討し、訓練を実施している。	避難訓練には地元消防団が参加してくれている。消防団の人達と一緒に、スムーズな誘導方法の勉強をしている。以前コミュニティに避難したが、設備が整っていなかったため、避難場所を法人の施設に変更した。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の気持ちを大切に考え他者に知られたくない事等察知し人格を尊重し対応に勤めている。排泄介助時も、個人個人の対応に応じて声かけを行っている。	利用者の逸脱した行為を止めようとした言動に対し、他の利用者から見て職員が悪者になったとしても利用者の人格を守るため決して止めた理由を言わない。職員が傷ついたとしても利用者の尊厳を守っている行為に感服する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表出できる環境を作り、自己決定できるよう勤めている。意志表示の困難な方は、表情を読み取ったり家族から情報収集し対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に本人の希望を聞いて支援している。極力、急な外出希望へ対応も行ったり、早急に思いを叶える事のできる様に調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院から出張してもらいカットしてもらっている。おしゃれで、清潔な洋服を着用してもらい、気分も楽しめるよう工夫している。お化粧をされる方もおられる。希望のシャンプー、石鹸など本人の思いに添う支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳、洗い物などその人に応じ、できる事をしていただいている。希望の献立を聞き楽しみが持てるようにしている。利用者が畑で収穫をしたものもすぐ使うようにしている。	家族アンケートや利用者の口からも「食事が美味しい」と評価が高い。おやつもできるだけ手作りを心掛けている。出汁もいりこや昆布から取るように努め、素材の味が活かされ、美味しい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量をチェックし、水分補給している。体重測定を月に1回行っている。食事量も一人一人に応じた量が摂取できるように支援している。減塩食、糖尿食等の食事について検討会を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けをし、できない方の介助をしている。義歯の方のポリドントを週に1回行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、本人の排泄パターンを知り声掛けを行っている。パット類も本人に合わせ工夫している。紙パンツの使用はできるだけ行っていない。	以前は布パンツの方が履き心地が良いと思い利用者に勧めていたが、失禁することへの不安を解消する方を優先し、パットや紙パンツを工夫しながら対応をしている。定期的に誘導をしているので失敗は少ない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、野菜の多い食事を心掛けている。運動等、散歩や体操を毎日心掛けている。下剤の利用を少なくするように気をつけている。食後トイレに座っていただくよう声掛けし習慣付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が苦痛にならない程度の声掛けをし毎日入浴を心掛けている。本人の体力や希望に合わせて中止している。なるべく希望の時間、順番に入浴できるよう配慮している。	元旦以外は毎日入浴支援をしているので、利用者の清潔が保持されている。他施設で特浴等を使用していた利用者は、家庭と同じ浴槽に対し不安を感じないよう最初は2名で介助し、安心感をもって入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬場はコタツや電気毛布等これまでの習慣を大切にしながら状態に合わせてエアコンで調節している。日中はなるべく活動量を増やしよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の使用目的や副作用・用法や要領についてファイルにまとめ職員が理解できるようにしている。服薬は、必ず職員が手渡し内服するまで見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の手伝い、洗濯干し、洗濯物たたみ、作品作りや外出などの役割を持ち楽しんで自発的に活動できるよう支援をしている。一人一人の力を見極めをし、声掛けをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の楽しみごとを聞き、買物に出たりドライブをしている。桜やコスモス、菖蒲など季節の花などを求めてドライブに出かけている。家族や地域の方の協力は難しい面がある。	気候が良ければほぼ毎日散歩に行っている。季節の花木が見頃の時期には、ドライブに出かけている。デイサービスの送迎に利用者も誘い一緒に行っている。利用者が散歩に行きたいと希望すれば、介護計画の目標にも掲げ支援を実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を手元にもって持っている人もいる。家族より小遣いを預かり事業所で管理している。買い物時は本人と一緒に買い物したり、希望のものが変えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方が有り、自由に家族との連絡が取れるよう支援している。はがきや手紙が書けるように支援している。年賀状が出せる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手工芸で季節の手作り作品を飾ったり、写真やカレンダーなどを飾り季節を感じられるようにしている。温度や湿度を図り過ごししやすいよう工夫している。	環境委員会を設けている。光が目には強くないよう電球の色を白からオレンジにするなど工夫をしている。利用者がその時の気分に応じて座れるよう、至る所にソファや椅子を配置している。天気の良い日は、駐車場にベンチを置き、日向ぼっこをしたり、歌を唄ったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に環境委員会で臭い、湿度、日差し、照明の調整、作業の音、会話のトーン等調べ、個々にあった環境整備に努めている。テレビやソファ、椅子の置き場所を工夫し、居心地のよい場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品を持ち込んで頂き居心地よく過ごせるように工夫している。持込の少ない人には、作品の展示やテーブルやソファを入れて安心して過ごせる空間、環境を工夫している。	転居後、生活スタイルが大きく変わらないように、以前の居室の写真を撮り同じ位置に家具を配置している。どの居室の窓からも眺めは良く、鳥の鳴き声を楽しみ、春夏秋冬の景色に季節を感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況を把握し、状態に応じ手すりを増設したり、トイレの表示を分かり易くして、分からなくても見て行ける様に工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373401011		
法人名	医療法人社団井口会		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	岡山県真庭市西河内42-2		
自己評価作成日	令和1年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022&kani=true&jigyosyoCd=3373401011-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7
訪問調査日	令和1年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・認知症を持ちながらも、普通の生活ができ楽しみのある生活が出来るよう努力している。
- ・同一法人内に総合病院、精神科専門病院があり医療面では24時間対応できるシステムがある。
- ・地域との繋がりを密に持ち、住み慣れた地域でその人らしく生活が出来る様支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をよく目の付くところに掲示している。スタッフ一人一人が理念を理解し、日々の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加(お祭り・とんど・ゴミ拾い等)したり、地域の清掃活動に参加して近所の方々との会話が弾んだり、地域の子供たちとの交流が出来る機会を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭、クリスマス会等施設行事へ地域の子供達へ参加をしてもらい、交流会を通してグループホームを知って頂き、認知症への理解を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動報告や事故報告書の報告を行い、検討、意見を頂き実践に生かしている。防災に関する意見を参考にして日頃の生活に生かしている。運営推進会議を活用して身体拘束等の適正化の為の理解を深めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会へ出席して頂き報告、相談を行っている。また、真庭市のGH連絡会に出席して、相談、指導を頂いている。日頃から何でも相談しやすい関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための指針を整備をしたり、運営推進会議で事例の報告、検討、研修を行っている。身体拘束ゼロへの手引きを職員全員に配布し研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加し、虐待とは何か、何故起こるか！等について話し合い、虐待に付いて理解を深め、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で市民後見について勉強を行い意識づけをしている。市民後見人テキストにて学習している。対応が必要な利用者には関係者と話し合い、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、家族へ入居時説明を行い疑問な点は出していただき答えるようにしている。問題があればその都度連絡している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口や意見箱を設置している。また、重要事項説明書に苦情の申し立てができることを明記し説明している。また意見や要望が言い合える関係づくりに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適宜職員会議やユニット会議を開催し、意見を聞いている。毎日の申し送り時に気付いた事、疑問点等言い合える環境を作ったり、申し送りノートに検討事項を記入してもらい、検討をしている。又提案アンケート等行い意見に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力状況、職場環境の問題点を報告し、改善できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体では新任職員研修会を開催している。施設内では年間計画の下に研修会を実施している。施設外の研修会に参加の呼びかけをし、研修後伝達講習を開催している。受講しやすいように勤務の調整もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加で意見交換を行っている。グループホームの連絡会に参加し他施設との情報交換を行っている。グループホームの合同勉強会に出席している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入居前から、本人、家族の思いや、要望を伺い安心して生活できるようになじみの関係をつくり、アセスメントシートを利用し、不安なことや要望を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に不安なこと、要望を聞くようにしている。入所後も、様子を知らせ家族との関係作りに努めている。スタッフの写真と名前を提示し職員との人間関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今どのようなサービスが必要かを本人、家族と考えるようにしている。他のサービスの検討も図り、他のサービス事業所との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所仕事や洗濯物干し、掃除や草取りなど利用者のできることを職員と一緒にやっている。特に畑仕事など入居者から過去の経験を通じて教わることも多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議への出席を依頼して、面会ができる機会を設けている。面会時に現状を報告し、必要時には電話連絡をしている。外出、外泊も家族と自由にいただいている。3ヶ月に1度「青空だより」を発行し利用者の様子を知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事に参加したり、なじみの場所へドライブしたり、近所のスーパーに行き地域の方々とのふれあう機会を持っている。また地域の敬老会へ出席して馴染みの方々に会って懐かしく会話が出来る。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係から、助け合い、補い合えるような席に成るよう配慮したり、ゆったりすごせるようにソファや庭にベンチを置いて、利用者同士会話が弾むように職員は話題の提供をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、本人、家族との連絡を取ったり、気軽に立ち寄れる環境を作っている。次施設に移られても面会したり、様子伺いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受け持ち担当者が本人の希望を聞いたり、また日常生活の中で様子を記録しカンファレンスに役立てている。一人一人と話す機会を持っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、面会時に家族から情報を収集している。入居後も会話の中から思いや、希望、気持ちの変わって行く様子等に寄り添い、どのように暮らして生きたいか把握し対応に努めている。。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から1人1人の状況を経過記録やカンファレンス、申し送りを通して職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、カンファレンスを行いその人に合ったケアが出来ているか見直しを行っている。家族には面会時に希望、意見、思いを聞き介護計画を作成している。状況が変わればその都度カンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録に記入し、職員で情報共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に合わせ、通院の必要な方の送迎、付き添い、入院時に必要な支援など行っている。入院中も見舞い、状況の把握に努めるなど、柔軟な対応に勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オカリナ、舞踊、健康体操や、大正琴のボランティアの方々の協力があり楽しみを持っている。また地区行事にも積極的に参加し地域の方々と取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月内科往診を受け、指導いただいている。受診は家族の希望を聞き行っている。家族同行が不可能なときには、職員が同行している。また、医療連携で健康面での相談がスムーズに出来、安心した生活が出来るように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専門職との連携で利用者の健康状態の把握をし、その変化に応じた支援を行っている。介護職、看護職それぞれの気づきを共有し異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院すると、その病院の相談員と情報交換し、スムーズな退院の運びとなるよう支援している。また、安心して入院治療が出来る様に、支援している。入院中は見舞いに行き、様子を伺ったり、カンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意志確認書を作成し、事業所が対応しえる最大のケアについて説明している。また、本人、家族の思いを尋ね、医療、福祉関係者との連携で支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応訓練を行っている。また緊急時の対応についてマニュアルに添って研修をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を消防署、地元消防団に参加してもらい実施している。水害や地震対応について研修会参加し自施設で報告会を行っている。マニュアル作成を法人全体で検討し、訓練を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の気持ちを大切に考え他者に知られたくない事等察知し人格を尊重し対応に勤めている。排泄介助時も、個人個人の対応に応じて声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表出できる環境を作り、自己決定できるよう勤めている。意志表示の困難な方は、表情を読み取ったり家族から情報収集し対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に本人の希望を聞いて支援している。極力、急な外出希望へ対応も行ったり、早急に思いを叶える事のできる様に調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院から出張してもらいカットしてもらっている。おしゃれで、清潔な洋服を着用してもらい、気分も楽しめるよう工夫している。お化粧をされる方もおられる。希望のシャンプー、石鹸など本人の思いに添う支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳、洗い物などその人に応じ、できる事をさせていただいている。希望の献立を聞き楽しみが持てるようにしている。利用者が畑で収穫をしたものもすぐ使うようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量をチェックし、水分補給している。体重測定を月に1回行っている。食事量も一人一人に応じた量が摂取できるように支援している。減塩食、糖尿食等の食事について検討会を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けをし、できない方の介助をしている。義歯の方のポリドントを週に1回行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、本人の排泄パターンを知り声掛けを行っている。パット類も本人に合わせ工夫している。紙パンツの使用はできるだけ行っていない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、野菜の多い食事を心掛けている。運動等、散歩や体操を毎日心掛けている。下剤の利用を少なくするように気をつけている。食後トイレに座っていただくよう声掛けし習慣付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が苦痛にならない程度の声掛けをし毎日入浴を心掛けている。本人の体力や希望に合わせて中止している。なるべく希望の時間、順番に入浴できるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬場はコタツや電気毛布等これまでの習慣を大切に状態に合わせてエアコンで調節している。日中はなるべく活動量を増やしよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の使用目的や副作用・用法や要領についてファイルにまとめ職員が理解できるようにしている。服薬は、必ず職員が手渡し内服するまで見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の手伝い、洗濯干し、洗濯物たたみ、作品作りや外出などの役割を持ち楽しんで自発的に活動できるよう支援をしている。一人一人の力を見極めをし、声掛けをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の楽しみごとを聞き、買物に出たりドライブをしている。桜やコスモス、菖蒲など季節の花などを求めてドライブに出かけている。家族や地域の方の協力は難しい面がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を手元に持ってもらっている人もいる。家族より小遣いを預かり事業所で管理している。買い物時は本人と一緒に買い物したり、希望のものが変えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方が有り、自由に家族との連絡が取れるよう支援している。はがきや手紙が書けるように支援している。年賀状が出せる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手工芸で季節の手作り作品を飾ったり、写真やカレンダーなどを飾り季節を感じられるようにしている。温度や湿度を図り過ごししやすいよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に環境委員会で臭い、湿度、日差し、照明の調整、作業の音、会話のトーン等調べ、個々にあった環境整備に努めている。テレビやソファ、椅子の置き場所を工夫し、居心地のよい場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品を持ち込んで頂き居心地よく過ごせるように工夫している。持込の少ない人には、作品の展示やテーブルやソファを入れて安心して過ごせる空間、環境を工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況を把握し、状態に応じ手すりを増設したり、トイレの表示を分かり易くして、分からなくても見て行ける様に工夫している。		